

「神は私たちの弱さにどう働かれるのか」

導入：

O I Cで、礼拝のメッセージを、聖書からさせていただけることを感謝しております。
時々、このように感じられることはないでしょうか？「私はクリスチャンだから、間違いなく天国に行ける。でも私は弱い。だから、私の地上の人生で、神様が偉大な事をしてくださるとは、とても思えない。」

私たちは、自分が弱い人間だと思うとき、神様はそんな私たちをどのように助けてくださるのでしょう？

祈り：

父なる神様、私たちは、あなたの御前におります。あなたを礼拝し、あなたのみことばを聞くためです。私たちにお語りください。そして私たちを教えてください。そして、私たちがあなたをよりよく、身近な方として知ることができますように。イエスの御名によってお祈りします。アーメン。

ローマ8:26-29, 34を見ていきましょう。[新改訳聖書2017]

8:26 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。8:27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。8:29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。

8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

1.御霊の助け 8:26

ローマ8:26

8:26 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。

聖書は、神の御霊がクリスチャンの体の中に住んでおられると、教えています。これは、I コリント 6:19 にはっきりと書かれています。

I コリント 6:19

6:19 あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。

これは、どのようなクリスチャンについて言われているのでしょうか？ 神様に近くを歩んでいるクリスチャン

でしょうか？

すぐ前の18節では、

Iコリント6:18

6:18 淫らな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、淫らなことを行う者は、自分のからだに対して罪を犯すのです。

コリントの町は、性的な罪で悪名の高いところでした。クリスチャンの間でも、この種の罪を犯している人たちがいました。ですから、パウロははっきりと語ります。「淫らな行いを避けなさい。」その上で、パウロは19節で、そのようなクリスチャンにも向かって、「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮です」と語ります。

ですから、私たちは、はっきり言うことができます。聖書によれば、すべてのクリスチャンは、たとえ重大な罪を犯していたとしても、聖霊がうちにいてくださいます。

では、聖霊は、私たちのうちで、何をされるのでしょうか？

ローマ8:26a

8:26a 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。

では、私たちは、どのような弱さを持っているのでしょうか？

肉体的には、私たちの体が弱いと感じます。年を取るとなおさらですね。また私たちはすぐに疲れてしまいます。

精神的には、私たちの心も弱いですね。私たちは「そうすべきだと分かっているけど、そうしたくないんだ。」なんて言うことがないのでしょうか？

霊的には、これは私たちと神様との関係ですが、私たちは、「神様をそこまで信頼することはできないんだ」などと言うかもしれませんね。

では、弱い私たちを、神の御霊がどのように助けてくださるのでしょうか？

ここで、「助ける」という言葉は、ギリシャ語の新約聖書では、「シュン・アンティ・ランバノマイ」という言葉です。「シュン」は「いっしょに」という意味。「アンティ」は互いに「向き合っ

て」です。「ランバノマイ」は、「持つ」とか「支える」です。ですから、この「助ける」は、聖霊が私たちといっしょにいてくださり、私たちを見ていてくださり、私たちが重いと思うものを持ち上げて、支えていてくださいます。言い換えれば、聖霊様が、「私はあなたといっしょにいる。私はあなたに向き合っ

て、あなたを見ている。あなたの重荷を、いつも生涯にわたって、ずっと運んでいるよ。だから心配しないで。ただ私を信頼していなさい。」と言っておられるわけです。

26節の後半です。

ローマ8:26b

8:26b 私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくさるのです。

では、御霊の祈りの焦点（中心）は、どこでしょう？

2-1. 神のみこころ - 祈りの焦点 8:27

ローマ8:27

8:27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神の

みこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。

ここで、「人間の心を探る方」とは、父なる神です。聖霊は、完全に、父なる神様のみこころに沿って祈られます。私たちは、いろんなことを祈ります。私たちも神のみこころに沿って祈ることもあるでしょう。でも私たちの祈りは、その焦点からずれているかもしれません。しかし、聖霊は、まさに神のみこころにしたがって、祈られます。

2-2. 神のみこころ、計画は、どのように私たちに実現するか？ 8:28

ローマ 8:28

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

すべてのクリスチャンは、神のご計画にしたがって召された者です。この節では、すべてのクリスチャンにとって、すべてのことがともに働いて益となると言っています。つまり、私たちの力を超えたことや、手に負えないことも、ともに働いて益になると保証しています。なぜなら、神は、すべてを支配しておられるからです。

実例A

あるクリスチャンのご夫妻が、廃品回収業をされて、私と同じ地域に住んでおられます。佐々木さんご夫妻です。佐々木さんは、私がいろんな教会で佐々木さんのことを話してもいいと言ってくださってます。その会社の名前を、「アガペ・リサイクル」とつけられました。仕事を通して神様の愛が表れていくことを願っておられます。仕事を始められた頃は、家も借家で、駐車場を借りて、回収してきた物を置いておく倉庫も借りておられました。賃料は相当な額でしたから、自分の土地と建物を持ちたいと何年も祈っておられました。いろいろと物件を探して、理想的な物が業者から紹介されました。佐々木さんたちはとても喜んで神様に感謝しておられました。しかし、数日後に、他の人が手付金を払って、それが人手に渡ってしまいました。そこで、がっかりして、祈られました。「神様、なぜですか？ 私たちは、あなたがこの理想的な物件に導いてくださったと思っていました。でもそれがだめになってしまいました。」

そして、もう一つがっかりすることが起こりました。佐々木さんは、ある引越業者から仕事をもらっておられました。その業者は、引越のお客さんがありますと、不用品の処理で、佐々木さんを紹介しておられました。その引越業者の社長さんが、「親会社と合併することになったので、親会社が使っている廃品回収業者に仕事を回さないといけなくなった。」と、にべもなく断られてしまいました。これで、佐々木さんは、仕事の3分の1以上を失いました。

そして、不動産業者がもう一つの物件を紹介してくれました。前の物件よりも、広い家で、駐車場の場所も十分にあって、さらに倉庫を建てるスペースもあります。前の物よりもはるかにすばらしいです。佐々木さんたちは喜んで、それを買うことに決めました。そこで、銀行にローンを申し込みました。しかし、返事が来ません。そこで、別の銀行に申し込みました。すると融資が下りましたので、その物件を購入しました。そうすると、最初の銀行からローンの許可が下りましたので、すぐに倉庫を建てることもできるようになりました。佐々木さんたちは大喜びで、神様を賛美しました。仕事をしていくのに十分な場所が与えられました。私もその場所を見せてもらって、神様のすばらしい導きをいっしょに賛美しました。

やがて、その2つのローンの返済が始まりました。しかし、彼らの収入が支出に届きません。仕事が十分にありませんでしたから。佐々木さんたちは祈りました。「私たちがローンを返せなかったら、すべてを失ってしまいます。あなたがこのすばらしい場所を与えてくださったのではないですか。そして私たちはあなたをほめたたえたのではないですか。しかし、仕事が十分ないと、すべてが無くなってしまいます。」

数日後に、電話がかかってきました。あの引越業者の社長さんからです。社長さんは、言いまし

た。「アガペさん。また私たちといっしょに働いていただけませんか。」佐々木さんは、なぜ社長さんがこう変わったのか、その理由が分かりません。しかし、これで、お金の問題がなくなってしまいました。神様が、すべてのことがともに働いて益となるようにしてくださいました。

私は、これが特別なケースだとは思いません。これは、神様が私たちすべてに約束しておられることが起こったという、一つの事例に過ぎません。

実例B

数年前のことですが、クリスチャンの友人から電話がありました。そして、私に尋ねました。「クリスチャンにとって、すべてのことがともに働いて益となるというのは、本当ですか？」

私は、その人をずっと前から、私が牧師になる前から知っています。そこで、私は言いました。

「この箇所は、『クリスチャンにとって、すべてのことがともに働いて益となる。』と言っているだけではなく、『クリスチャンにとって、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。』と言っています。あなたが『それを知らない』と言われるのは、どういうわけですか？」私は、それ以上説明をする必要がありませんでした。彼は自分で、「私はこのことに確信を持つべきだ」と思ったと思います。

2-3. 神のみこころの中心は？ 8:28

ローマ 8:29

8:29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。

神様は、すべての人を知っておられます。神様は、誰がキリストを信じて救われるかを、あらかじめ知っておられます。神が、救われると知っておられる人々を、神はあらかじめ、救われるようにというだけでなく、御子イエスと同じ姿になるように定めておられます。ここで、「御子のかたちと同じ姿になる」という意味は、私たちクリスチャンは、イエスと同じかたちになるということです。私たち、神に造られた者が、造り主であるイエスと同じかたちになるとは、一体どういうことでしょうか？

では、人間とは何かを見ていきましょう。神はどのように人間を造られたのでしょうか？

創世記 1:26-27

1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

ここで、神は言われます。「人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。」そして、27節では、「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し」と言われます。ここで、3回「(神の) かたち」とあり、1回「(神の) 似姿」とあります。

このように繰り返されていることが意味しているのは、神は、私たち人間を（4回言います）、とても、とても、とても、とても神に近いものとして造られたということになります。

そうすると、神様にとっては、私たちが救われて、御子イエスのかたちと同じ姿になるということは、当然なことになります。神様は、これをなさいます。

しかし、このことは、神の目的ではありません。神の目的は、29節のその続きの部分です。

ローマ 8:29b

8:29 それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。

神のその目的とは、イエスと私たちが、一つの交わりをすることです。このために、イエスと私たちの間でのたったひとつの違いは、イエスは、神から最初に生まれた御子であり、イエスご自身は神です。イエスは永遠から永遠まで存在される方です。そしてイエスはいつも父とともにおられます。

では、なぜ神は私たちを神ご自身にとっても近いものとして造られたのでしょうか？ 神は私たち人間と、とても親しいまじわりを持ちたいと思われたからです。

ですから、29節で、「多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。」とあるのは、神が初めに立てられた計画がここで実現することになります。

日本では、親しい友達が畳の部屋で集まると、座布団の上に座ります。当然、ひとりひとりが一つの座布団に座ります。ところが、何か褒められるようなことをした人は、座布団2枚を重ねてその上に座って、優越感を味わうことができます。特に、ゲームに勝ったときなどにそうします。このようにたとえてみたいと思います。私たちが永遠の中で、イエス様といっしょに集まった時に、私たちは、きっこう言うでしょう。「イエス様、あなたは私たちとは違います。あなたは神です。ですから、少なくともあなたは2枚の座布団に座るべきです。しかし、イエス様は言われるでしょう。「私は、座布団1枚で十分です。私とあなたがたは、別に違いはありません。唯一の違いは、私は初めから存在していること。そしてあなたがたは、神のご計画の途中で生まれたということです。ですから、私たちは同じです。」イエスは、私たちと同じでありたいと願っておられます。

これが、神の永遠の目的です。この目的のために、私たちは「御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。」

最後に、

3. イエスの助け 8:34

ローマ 8:34

8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

イエスは十字架の上で死なれ、私たちの罪からのあがないを成し遂げてくださいました。イエスは、このようには言われません。「さあ、あなたは最善を尽くして、私のようにになりなさい。」そうではなく、イエスは神の右の座に着かれて、そこは神がその主権を行使されるところです。そこで、イエスはいつも私たちのために祈り、とりなしをしてくださいます。イエスは、私たちのためのこの働きに集中しておられます。イエスにとってこれ以上に大切なことはありません。

私たちは弱いかもしれません。いいえ、私たちは弱いです。しかし、私たちが弱くても、それは神のみわざに少しも影響を与えません。聖霊は、いつも私たちを助けてくださって、私たちのすべての重荷をともに運んでくださいます。御霊はまた、私たちのためにうめくような深い祈りを、私たちが祈れない時ですら、してくださっています。そして、イエスもまた、神の右の座から私たちのために祈ってくださっています。

私たちは、イエスに本当に似た者になります。それは神が私たちのために、あらかじめそのように定めておられることです。それが実現することを、神が失敗されることは決してありません。

私たちは、兄弟姉妹を、神が必ずそのようにしていかれる人として見ていきましょう。そして私

たち自身をも、そのように見ていきましょう。

お祈りしましょう。

神様、あなたは私たちが、イエス様と本当に親しい交わりを持つていくことを願っておられます。このために、あなたは私たちを、あなたご自身のかたちに造られました。聖霊様とイエス様が、絶えず私たちのために祈ってくださっています。そして私たちの重荷を、生涯すべてにわたって運んでいてくださいます。私たちの弱さの中でも、あなたが、ご自身を表わしてください。そして私たちのまわりの方々が、あなたご自身を、私たちのうちに見ていかれることができるようにしてください。イエスの御名によって、アーメン。